

PAT-NO: JP02000181975A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000181975 A

TITLE: SLIP PROCESSING SYSTEM AND METHOD USING PLURAL CURRENCIES

PUBN-DATE: June 30, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
OKABE, MARIO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NTT DATA CORP	N/A

APPL-NO: JP10354113

APPL-DATE: December 14, 1998

INT-CL (IPC): G06F019/00, G07G001/12

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To perform transfer slip input in plural currencies in a computer accounting processing.

SOLUTION: Plural transaction currencies, one reference currency selected from them and an exchange rate between the reference currency and the other transaction currencies are stored in a storage device beforehand. A transfer slip input screen 61 for entering the respective slip journal details of a debit side and a credit side is displayed. On the screen 61, a user enters an account title for the respective slip journal details, selects the transaction currency and enters the money amount of the debit side and the credit side by the selected transaction currency. When the money amount is entered, this system automatically calculates a reference money amount by the reference currency equivalent to the inputted money amount and enters it to the screen 61. The entered account title, debit side money amount, credit side money amount and reference money amount of the respective slip journal details are displayed in a table form at a detailed data display part 67 on the screen 61. Further, the difference of the reference money amounts of the debit side and the credit side is displayed as a total money amount.

(19) 日本国特許庁 (J P)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-181975

(P2000-181975A)

(43) 公開日 平成12年6月30日 (2000.6.30)

(51) IntCl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
G 0 6 F 19/00		G 0 6 F 15/22	A 3 E 0 4 2
G 0 7 G 1/12	3 6 1	G 0 7 G 1/12	3 6 1 B

審査請求 有 請求項の数12 OL (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願平10-354113

(22) 出願日 平成10年12月14日 (1998. 12. 14)

(71) 出願人 000102728

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

東京都江東区豊洲三丁目3番3号

(72) 発明者 岡部 摩利夫

東京都江東区豊洲三丁目3番3号 株式会

社エヌ・ティ・ティ・データ内

(74) 代理人 100095371

弁理士 上村 輝之

Fターム(参考) 3E042 BA17 CC10 CD10

(54) 【発明の名称】 複数通貨を用いた伝票処理システム及び方法

(57) 【要約】

【課題】 コンピュータ会計処理において複数通貨での振替伝票入力を可能にする。

【解決手段】 予め、複数の取引通貨と、その中から選んだ1つの基準通貨と、基準通貨と他の取引通貨との間の為替レートとを記憶装置に登録しておく。借方及び貸方の各伝票仕訳明細をエントリするための振替伝票入力画面61を表示する。この画面61上でユーザは、各伝票仕訳明細について、勘定科目をエントリし、取引通貨を選択し、その選択した取引通貨での借方又は貸方の金額をエントリすることができる。金額をエントリすると、システムが、その金額に相当する基準通貨による基準金額を自動計算して、この画面61にエントリする。エントリされた各伝票仕訳明細の勘定科目、借方金額、貸方金額、基準金額は、画面61内の明細データ表示部67に表形式で表示される。更に、借方と貸方の基準金額の差分が合計金額として表示される。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の取引通貨の中から選ばれた一つの基準通貨と、前記複数の取引通貨の中の前記基準通貨以外の取引通貨の各々との間の換算レートを保存するためのレート保存部と、

1枚の振替伝票に記載すべき借方の伝票仕訳明細及び貸方の伝票仕訳明細をユーザがエントリするための伝票入力画面をユーザに表示するものであって、前記伝票入力画面は、各伝票仕訳明細について通貨フィールドと金額フィールドと基準金額フィールドとを有し、前記通貨フィールドは、前記複数の取引通貨の中からユーザが任意に選択した取引通貨をエントリするためのフィールドであり、前記金額フィールドは、前記通貨フィールド内の取引通貨による借方金額又は貸方金額をユーザがエントリするためのフィールドであり、前記基準金額フィールドは、前記金額フィールド内の金額に相当する前記基準通貨による金額を示した基準金額をエントリするためのフィールドであるユーザインタフェース部と、

前記伝票画面の金額フィールドにユーザが金額をエントリしたとき、前記レート保存部に保存されている前記基準通貨と前記通貨フィールド内の取引通貨との間の換算レートを用いて、前記金額フィールド内の金額から、これに相当する前記基準金額を計算し、この計算した基準金額を前記伝票入力画面の前記基準金額フィールドにエントリする基準金額計算部と、

前記伝票入力画面にエントリされた借方の基準金額の合計値と貸方の基準金額の合計値との間のバランスをチェックするバランスチェック部と、

前記伝票画面にエントリされた借方及び貸方の伝票仕訳明細であって、前記バランスチェック部によってバランスが取れていると判断されたものを、保存する伝票保存部と、を備えた複数の通貨を用いた伝票処理システム。

【請求項2】 前記換算レート保存部は、前記基準通貨以外の取引通貨の各々と前記基準通貨との間に、複数のレートタイプによる複数の換算レートを保存することができ、

前記伝票入力画面は、各伝票仕訳明細について、前記複数のレートタイプの中からユーザが任意のレートタイプを選択してエントリするためのレートタイプフィールドを有し、

前記基準金額計算部は、前記レート保存部に保存されている前記基準通貨と前記通貨フィールド内の取引通貨との間の複数のレートタイプの換算レートの中から、前記レートタイプフィールド内のレートタイプに該当する換算レートを選び、この選んだ換算レートを用いて前記金額フィールド内の金額に相当する前記基準金額を計算する請求項1記載の伝票処理システム。

【請求項3】 前記伝票入力画面は、エントリされた伝票仕訳明細の勘定科目、借方金額、貸方金額及び基準金額を表形式で表示する明細データ表示部を有し、

前記明細データ表示部は、各伝票仕訳明細をそれぞれ表示するための上下に並んだ複数の行と、前記勘定科目、借方金額、貸方金額及び基準金額をそれぞれ表示するための左右に並んだ複数の列を有し、前記基準金額は借方と貸方とで異なる符号を付けて表示する請求項1記載の伝票処理システム。

【請求項4】 前記伝票入力画面は、前記借方の基準金額の合計値と、前記貸方の基準金額の合計値との差分値を示す合計金額フィールドを更に有する請求項1記載の伝票処理システム。

【請求項5】 複数の取引通貨の中から選ばれた一つの基準通貨と、前記複数の取引通貨の中の前記基準通貨以外の取引通貨の各々との間の換算レートを保存するレート保存ステップと、

1枚の振替伝票に記載すべき借方の伝票仕訳明細及び貸方の伝票仕訳明細をユーザがエントリするための伝票入力画面をユーザに表示するステップであって、前記伝票入力画面は、各伝票仕訳明細について通貨フィールドと金額フィールドと基準金額フィールドとを有し、前記通貨フィールドは、前記複数の取引通貨の中からユーザが任意に選んだ取引通貨をエントリするためのフィールドであり、前記金額フィールドは、前記通貨フィールド内の取引通貨による借方金額又は貸方金額をユーザがエントリするためのフィールドであり、前記基準金額フィールドは、前記金額フィールド内の金額に相当する前記基準通貨による金額を示した基準金額をエントリするためのフィールドである伝票入力画面表示ステップと、

前記伝票画面の金額フィールドにユーザが金額をエントリしたとき、保存されている前記基準通貨と前記通貨フィールド内の取引通貨との間の換算レートを用いて、前記金額フィールド内の金額から、これに相当する前記基準金額を計算し、この計算した基準金額を前記伝票入力画面の前記基準金額フィールドにエントリする基準金額計算ステップと、

前記伝票入力画面にエントリされた借方の基準金額の合計値と貸方の基準金額の合計値との間のバランスをチェックするバランスチェックステップと、

前記伝票画面にエントリされた借方及び貸方の伝票仕訳明細であって、前記バランスチェック部によってバランスが取れていると判断されたものを、保存する伝票保存ステップと、を備えた複数の通貨を用いた伝票処理方法。

【請求項6】 前記換算レート保存ステップは、前記基準通貨以外の取引通貨の各々と前記基準通貨との間に、複数のレートタイプによる複数の換算レートを保存することができ、

前記伝票入力画面は、各伝票仕訳明細について、前記複数のレートタイプの中からユーザが任意のレートタイプを選択してエントリするためのレートタイプフィールドを有し、

前記基準金額計算ステップは、保存されている前記基準

金額と前記通貨フィールド内の取引通貨との間の複数のレートタイプの換算レートの中から、前記レートタイプフィールド内のレートタイプに該当する換算レートを選び、この選んだ換算レートをを用いて前記金額フィールド内の金額に相当する前記基準金額を計算する請求項5記載の伝票処理方法。

【請求項7】 前記伝票入力画面は、エントリされた伝票仕訳明細の勘定科目、借方金額、貸方金額及び基準金額を表形式で表示する明細データ表示部を有し、前記明細データ表示部は、各伝票仕訳明細をそれぞれ表示するための上下に並んだ複数の行と、前記勘定科目、借方金額、貸方金額及び基準金額をそれぞれ表示するための左右に並んだ複数の列を有し、前記基準金額は借方と貸方とで異なる符号を付けて表示する請求項5記載の伝票処理方法。

【請求項8】 前記伝票入力画面は、前記借方の基準金額の合計値と、前記貸方の基準金額の合計値との差分値を示す合計金額フィールドを更に有する請求項5記載の伝票処理方法。

【請求項9】 複数の取引通貨の中から選ばれた一つの基準通貨と、前記複数の取引通貨の中の前記基準通貨以外の取引通貨の各々との間の換算レートを保存するレート保存ステップと、

1枚の振替伝票に記載すべき借方の伝票仕訳明細及び貸方の伝票仕訳明細をユーザがエントリするための伝票入力画面をユーザに表示するステップであって、前記伝票入力画面は、各伝票仕訳明細について通貨フィールドと金額フィールドと基準金額フィールドとを有し、前記通貨フィールドは、前記複数の取引通貨の中からユーザが任意に選んだ取引通貨をエントリするためのフィールドであり、前記金額フィールドは、前記通貨フィールド内の取引通貨による借方金額又は貸方金額をユーザがエントリするためのフィールドであり、前記基準金額フィールドは、前記金額フィールド内の金額に相当する前記基準通貨による金額を示した基準金額をエントリするためのフィールドである伝票入力画面表示ステップと、

前記伝票画面の金額フィールドにユーザが金額をエントリしたとき、保存されている前記基準通貨と前記通貨フィールド内の取引通貨との間の換算レートをを用いて、前記金額フィールド内の金額から、これに相当する前記基準金額を計算し、この計算した基準金額を前記伝票入力画面の前記基準金額フィールドにエントリする基準金額計算ステップと、

前記伝票入力画面にエントリされた借方の基準金額の合計値と貸方の基準金額の合計値との間のバランスをチェックするバランスチェックステップと、

前記伝票画面にエントリされた借方及び貸方の伝票仕訳明細であって、前記バランスチェック部によってバランスが取れていると判断されたものを、保存する伝票保存ステップと、を備えた複数通貨を用いた伝票処理方法

を、コンピュータに実行させるためのプログラムを担持したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項10】 前記換算レート保存ステップは、前記基準通貨以外の取引通貨の各々と前記基準通貨との間に関し、複数のレートタイプによる複数の換算レートを保存することができ、

前記伝票入力画面は、各伝票仕訳明細について、前記複数のレートタイプの中からユーザが任意のレートタイプを選択してエントリするためのレートタイプフィールドを有し、

前記基準金額計算ステップは、保存されている前記基準金額と前記通貨フィールド内の取引通貨との間の複数のレートタイプの換算レートの中から、前記レートタイプフィールド内のレートタイプに該当する換算レートを選び、この選んだ換算レートをを用いて前記金額フィールド内の金額に相当する前記基準金額を計算する請求項9記載の記録媒体。

【請求項11】 前記伝票入力画面は、エントリされた伝票仕訳明細の勘定科目、借方金額、貸方金額及び基準金額を表形式で表示する明細データ表示部を有し、

前記明細データ表示部は、各伝票仕訳明細をそれぞれ表示するための上下に並んだ複数の行と、前記勘定科目、借方金額、貸方金額及び基準金額をそれぞれ表示するための左右に並んだ複数の列を有し、前記基準金額は借方と貸方とで異なる符号を付けて表示する請求項9記載の記録媒体。

【請求項12】 前記伝票入力画面は、前記借方の基準金額の合計値と、前記貸方の基準金額の合計値との差分値を示す合計金額フィールドを更に有する請求項9記載の記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、一般的には会計業務を行うコンピュータシステムに関わり、特に、複数の通貨を使用する環境下における伝票処理のためのシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の経理処理のためのコンピュータシステムは、基本的に1種類の通貨を用いた伝票処理しか想定していない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】海外進出や海外取引のある企業での外貨処理では、伝票処理において複数の通貨を使用したい。しかし、従来のシステムは、1種類の通貨しか想定しておらず、1枚の伝票で異なる通貨を使用することができない。例えば、振替伝票では借方金額と貸方金額とを並列表示して、両者をバランスをチェックするが、異なる通貨の金額で借方金額と貸方金額を入力しても、従来システムでは両者のバランスチェックができないので無意味である。

【0004】複数通貨を取り扱う場合、必然的に為替レートを計算に入れなければならない。変動相場制の下では、為替レートは日毎に異なる。また、個々の取引で使用される為替レートには「TTS」（電信為替相場）、「TTB」（電信為替買相場）、「TMM」（電信為替中相場）などの複数のタイプがあり、更には、特定企業に固有に適用されるレート（以下、「社内レート」という）もある。しかし、従来のシステムは、一つの為替レートでしか計算できず、日々変動する為替レートや異なるレートタイプで行われた取引をそれぞれの為替レートを10用いて換算評価することができない。そのため、正確な為替差損益を把握することができない。

【0005】更に、為替差損益が原因で借方金額と貸方金額とがバランスしないことが少なくない。借方金額と貸方金額とがアンバランスであれば、その伝票はシステムによって受け入れを拒否されるから、ユーザはマニュアルで為替差損益を計算してシステムに入力することでバランスをとらなければならない。従来システムでは、一つの通貨、例えば日本円、しか対応していないため、如何なる通貨を用いた取引についても、為替差損益を日本円に換算して計算しなければならず、これがかなり面倒である。20

【0006】簿記法のプラクティスは国によって微妙に違う。例えば、振替伝票に借方金額と貸方金額を記載する場合、日本では借方金額と貸方金額を同一行に横並びに記載して、両金額が一致するか否かでバランスをチェックする。一方、日本以外の多くの国々では、借方金額と貸方金額をプラスとマイナスの符合を付けて異なる二行に上下に並べて記載し、両金額の加算値がゼロか否かで20バランスをチェックする。従来システムの伝票画面は、1カ国での簿記プラクティスに則って作られているため、別のプラクティスをもつ国の人にとっては、馴染みにくく使いづらい。

【0007】従って、発明の目的は、一枚の伝票で複数の通貨が使用できる伝票処理システムを提供することにある。

【0008】本発明の別の目的は、日々変動する為替レートや複数のレートタイプに対応できる伝票処理システムを提供することにある。

【0009】本発明のまた別の目的は、ユーザが為替差損益を容易に把握して貸借のバランスをとることができる伝票処理システムを提供することにある。40

【0010】本発明の更に別の目的は、どの国の人も馴染みやすい伝票画面をもつ伝票処理システムを提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】本発明の伝票処理システムは、複数の取引通貨を用いて伝票入力を行えるものあって、それら複数の取引通貨の中から選ばれた一つの基準通貨と、この基準通貨以外の取引通貨の各々との間の50

換算レートを保存している。そして、ユーザが伝票入力を行う際には、1枚の振替伝票に記載すべき借方の伝票仕訳明細及び貸方の伝票仕訳明細をエントリするための伝票入力画面を表示する。この伝票入力画面には、各伝票仕訳明細について、通貨フィールドと金額フィールドと基準金額フィールドとが設けられている。通貨フィールドには、複数の取引通貨の中からユーザが任意に選んだ取引通貨をエントリすることができる。金額フィールドには、その選んだ取引通貨による借方金額又は貸方金額をエントリすることができる。基準金額フィールドには、金額フィールドにエントリされた金額に相当する基準通貨による金額を（基準金額）がエントリされる。

【0012】ユーザが取引通貨を選択してその通貨による借方金額又は貸方金額を伝票画面の金額フィールドにエントリすると、システムは、保存されているその取引通貨と基準通貨との間の換算レートを10用いて、エントリされた借方金額又は貸方金額に相当する基準金額を計算して、これを伝票入力画面の基準金額フィールドにエントリする。必要な借方及び貸方の伝票仕訳明細のエントリが終わると、システムは、エントリされた借方の基準金額の合計値と貸方の基準金額の合計値との間のバランスをチェックする。その結果、バランスが取れていれば、そのエントリの終わった伝票の内容を保存することができる。

【0013】本システムによれば、1枚の伝票に記載すべき借方と貸方の金額を、それぞれユーザ任意の取引通貨で伝票入力画面にエントリすることができ、それらエントリされた借方及び貸方の金額はそれぞれ自動的に基準通貨による基準金額に換算され、その基準金額も同時に20伝票入力画面エントリされ表示される。そして、バランスチェックも、その基準金額を用いて行われる。従って、1枚の伝票に複数の通貨で入力ができ、バランスチェックも正確に行なうことができる。

【0014】好適な実施形態では、各取引通貨と基準通貨との間の換算レートに関し、複数のレートタイプ（例えば、TTB、TTS、TMM、社内レートなど）による複数の換算レートを保存することができ、伝票入力画面上では、ユーザは、各伝票仕訳明細について、任意の取引通貨の任意のレートタイプを選択することができるようになっている。そして、ユーザが選択したレートタイプの換算レートで、基準金額が自動計算されるようになっている。これにより、複数のレートタイプに対応することができる。

【0015】好適な実施形態では、伝票入力画面には、エントリされた伝票仕訳明細の勘定科目、借方金額、貸方金額及び基準金額を表形式で表示する明細データ表示部がある。この明細データ表示部は、各伝票仕訳明細をそれぞれ表示するための上下に並んだ複数の行と、上記の勘定科目、借方金額、貸方金額及び基準金額をそれぞれ表示するための左右に並んだ複数の列を有している。

また、明細データ表示部では、基準金額は借方と貸方とで異なる符号を付けて（例えば、貸方はマイナス符号、借方は符号なし）表示される。これにより、借方金額と貸方金額が左右に並んだ別の列に表示されるので、日本などの簿記プラクティスに慣れた人に馴染み易く、かつ、借方と貸方の基準金額が同じ列に上下に並んで異なる符号を付して表示されるので、日本以外の国々の簿記プラクティスに慣れた人にも馴染み易い。

【0016】好適な実施形態では、伝票入力画面に、エントリされた全ての借方の基準金額の合計値と、エントリされた全ての貸方の基準金額の合計値との差分が、合計金額として表示される。この合計金額を見ることで、入力ミス又は為替差損益が生じているか否かを容易に判断でき、かつ、為替差損益が生じている場合には、この合計金額が為替差損益の金額に他ならないから、為替差損益を伝票に入力する際にユーザがマニュアルでその金額を計算する手間が省ける。

【0017】本発明はコンピュータにより実施することができるが、そのためのコンピュータプログラムは、ディスク型ストレージ、半導体メモリおよび通信ネットワークなどの各種の媒体を通じてコンピュータにインストールまたはロードすることができる。

【0018】

【発明の実施の形態】図1は、本発明の一実施形態にかかる伝票処理システムのシステム構成を示す。

【0019】伝票処理システム1は、典型的にはプログラムされた汎用コンピュータを用いて実施することができる。このコンピュータの外部記憶装置3、ディスプレイ装置5、及びマウス7やキーボード9などの入力装置と協働して、以下に説明する諸機能を果たす。

【0020】この伝票処理システム1は、外部記憶装置3内に、通貨マスタファイル11、レートマスタファイル13、科目マスタファイル15、及び仕訳テーブル17を有している。図2～図5は、通貨マスタファイル11、レートマスタファイル13、科目マスタファイル15、及び仕訳テーブル17の内容をそれぞれ例示している。

【0021】図2に示すように、通貨マスタファイル11には、ユーザが取引に使用する1つ以上（通常は複数）の通貨（以下、取引通貨という）について、各通貨のコード、名称及び通貨記号が登録されている。取引通貨は、ユーザが任意に選ぶことができる。ユーザはまた、それら複数の取引通貨の中から1つの通貨を、「基準通貨」として、任意に選択することができる。基準通貨がどの通貨であるかを示すフラグも、この通貨マスタファイル11に登録されている。ここで、「基準通貨」とは、振替伝票におけるバランスチェックなどの計算の基準として使用する通貨のことである。図2に示す例では、日本円と香港ドルと人民元とが登録されており、そのうち人民元が基準通貨として指定されている。

【0022】図3に示すように、レートマスタファイル13には、通貨マスタファイル11に登録された複数の取引通貨の間での為替レート、特に、基準通貨以外の取引通貨の各々から基準通貨への為替レートが、レートタイプ別及び日付別に登録されている。すなわち、各為替レートのレコードには、レートタイプ（TTB、TTS、TTM、社内レートなど）、換算元通貨、換算先通貨、換算日、及び換算レート値が登録されている。図3には、香港ドルから基準通貨の人民元への数日分の一部のレートしか示されていないが、実際には、日本円から人民元へのレートも登録されており、また、保存しておく必要のある本日以前の期間の全ての日のレートが登録されている。

【0023】図4に示すように、科目マスタファイル15には、ユーザが任意に決定した種々の勘定科目について、科目コード、補助コード、勘定科目名、科目区分、及びデフォルトのレートタイプとが登録されている。ここで、注目すべきは、各勘定科目にデフォルトのレートタイプが割り当てられている点である。伝票入力の際に勘定科目を入力すると、自動的にそのデフォルトのレートタイプが伝票画面にエントリされるので、ユーザは、デフォルト以外のレートタイプを用いる特別の少数ないケースを除いて、通常はどのレートタイプを用いるかという点に気を配る必要はない。

【0024】図5に示すように、仕訳テーブル17には、保存しておく必要のある期間における全ての入力済み振替伝票の全ての伝票仕訳明細の各々（図5では各行18で示されている）について、伝票番号、貸借区分、通貨、借方入力金額、借方レート、借方基準金額、貸方入力金額、貸方レート、貸方基準金額などが登録されている。更に、図示していないが、各伝票仕訳明細の日付や勘定科目など、財務諸表作成などの後処理に必要な全ての事項が登録されている。

【0025】再び図1を参照する。伝票処理システムは、機能別のコンポーネントとして、通貨登録部21、為替レート登録部23、勘定科目登録部25及び振替伝票入力部27を有している。通貨登録部21、為替レート登録部23及び勘定科目登録部25は、それぞれ、図3～図4に示した通貨マスタファイル11、レートマスタファイル13及び科目マスタファイル15にユーザが任意のデータを登録するためのものである。また、振替伝票入力部27は、振替伝票にユーザが借方と貸方の各伝票仕訳明細を入力するためのものである。なお、勘定科目登録部25は、基本的には従来システムのそれと同様であるが、前述したようにデフォルトのレートタイプを各勘定科目に割り付けることができる点は新規である。以下、通貨登録部21、為替レート登録部23及び振替伝票入力部27について、更に具体的に説明する。

【0026】図6は、通貨登録部21が表示する通貨登録画面31を示す。

【0027】通貨登録部21を起動すると、この通貨登録画面31がディスプレイ画面に表示される。ユーザがこの通貨登録画面31に任意の通貨のコード、名称及び通貨記号をエントリして保存ボタン33を押す(クリックする)と、通貨登録部21がエントリされた通貨のコード、名称及び通貨記号を通貨マスタファイル11に保存する。図示の例では、香港ドルと日本円と人民元とがエントリされている。登録できる通貨種類数は非常に多い(例えば、最大999種類)。

【0028】為替レート登録部23を起動すると、この為替レート登録画面41がディスプレイ画面に表示される。ユーザは、この為替レート登録画面41において、上側のフィールド43、45、47にそれぞれ取引通貨、基準通貨及び登録月をエントリする。中央のレートテーブル49は、一ヶ月の日毎に分かれた31日分の行と、3つのレートタイプ毎に分かれた3つの列とから構成される。ユーザは登録月の各日に、レートテーブル49の当該日の行へ、その日の取引通貨から基準通貨へのTTS、TTB及びTTMをエントリする。下側のフィールド51には、登録月の社内レートをエントリすることができる。エントリ後に保存ボタン55を押すと、為替レート登録部23がそのエントリされた内容をレートマスタファイル13に登録する。尚、社内レートも日毎にエントリできるようにしてもよい。更に、別のレートタイプ、例えば、Cash-S(現金売相場)、Acceptance-S(一覧払輸入手形決済済売相場)、AB-S(借用付き一覧払手形買相場)、Usance-B(ユーザンズ金利レート買相場)、AS(Non L/C)-B(信用状無し一覧払手形買相場)、Cash-B(現金買相場)などのレートも、為替レート登録画面41(又は追加の為替レート登録画面)からレートマスタファイル13に登録できるようにしてもよい。

【0029】図8は、振替伝票入力部27が表示する振替伝票入力画面41を示す。

【0030】振替伝票入力部27を起動すると、この振替伝票入力画面41がディスプレイ画面に表示される。この振替伝票入力画面41は、ヘッダー部63と、明細部65と、明細データ表示部67とを有する。

【0031】ヘッダー部63には、計上日をエントリするための計上日フィールド69、伝票番号をエントリするための伝票番号フィールド71などがある。

【0032】明細部65は、一つの伝票仕訳明細をエントリするための領域であって、行番号をエントリするための行番号フィールド73、借方と貸方の区分を選択してエントリするための貸借区分フィールド75、勘定科目を選択するための勘定科目フィールド、取引通貨を選択してエントリするための通貨フィールド79、レートタイプを選択してエントリするためのレート対応フィールド81、換算レートをエントリするための換算レートフィールド83、取引金額をエントリするための金額フ

ィールド85、基準金額をエントリするための基準金額フィールド87などがある。

【0033】明細データ表示部67は、明細部65にエントリされた伝票仕訳明細を伝票形式で表示するためのテーブルである。仕訳テーブル67は、それぞれ行番号が付されその行番号の伝票仕訳明細を表示する複数の伝票仕訳明細行91と、伝票仕訳明細の各項目毎に分けられた複数の列93〜103、すなわち、勘定科目の列93、補助事項の列95、換算レートの列95、借方金額の列97、貸方金額の列101、及び基準金額の列103とを有する。各行と各列との交差により形成されるフィールドを「セル」と呼ぶ。従って、1つの伝票仕訳明細行91は、当該伝票仕訳明細の勘定科目を示す勘定科目セル、補助事項を示す補助セル、換算レートを示す換算レートセル95、借方金額を示す借方金額セル、貸方金額を示す貸方金額セル、及び基準金額を示す基準金額セルから構成される。明細データ表示部67の最も下方には、エントリされた全ての借方金額、貸方金額及び基準金額のそれぞれの合計値を示す1つの合計行92がある。

【0034】明細データ表示部67は、更に、エントリした伝票仕訳明細の確定を命じるための確定ボタン15や、全ての伝票仕訳明細がエントリし終わった振替伝票の内容の保存を命じる保存ボタン107などを有する。

【0035】図9は、振替伝票入力部27の処理流れを示す。以下、図8と図9を参照して、振替伝票入力部の処理を説明する。

【0036】振替伝票入力部27は、まず、図8に例示したような振替伝票入力画面61を表示する(ステップS1)。表示されたばかりの振替伝票入力画面61には原則として何もエントリされていない。但し、計上日フィールド69には、当日の日付がデフォルトでエントリされており、行番号フィールド73には、最初に1番がデフォルトでエントリされている。ユーザは、計上日をデフォルト以外の日付にする必要があればその日付を計上日フィールド69にエントリし、さらに、伝票番号を伝票番号フィールド71にエントリするなど、ヘッダ部63に必要事項をエントリする(S2)。

【0037】次に、ユーザは明細部65への入力を行う。

【0038】すなわち、貸借区分フィールド75で、貸方か借方かを選択しエントリする(S3)。また、勘定科目フィールド77に勘定科目をエントリする(S4)。勘定科目をエントリする場合、ユーザが所定の動作(例えば勘定科目フィールド77のダブルクリック)を行うと、振替伝票入力部27は、科目マスタファイル15を参照して勘定科目のリストを例えばプルダウンメニューの形式で表示するので、その勘定科目リスト中から所望の科目を選んでエントリすることができる。その時、振替伝票入力部27は、科目マスタファイル15を

参照して、エントリされた科目に割り当てられたデフォルトのレートタイプを、レートタイプフィールド81に表示する(S5)。

【0039】ユーザはまた、通貨フィールド79で、通貨マスタファイル11に登録されている複数の取引通貨の中から1つの通貨を選択しエントリする(S6)。ユーザはまた、必要があれば、レートタイプを変更する(S7)。レートタイプと取引通貨とがエントリされると、振替伝票入力部27は、エントリされた計上日とレートタイプと取引通貨とに該当する換算レートを、レートマスタファイル13から読み出して換算レートフィールド83に表示する(S8)。必要あれば、ユーザは換算レートフィールド83の換算レートを変更できる。但し、エントリされた取引通貨が基準通貨の場合には、換算レートを計算に入れる必要が無いので、振替伝票入力部27は、レートタイプフィールド81に「対象外」を、換算レートフィールド83には「1.00」を、固定的に表示する。

【0040】ユーザは次に、エントリした通貨で示した取引金額を、金額フィールド85にエントリする(S9)。すると、振替伝票入力部27は、換算レートフィールド83にエントリされた換算レートをを用いて、エントリされた取引金額を基準通貨の金額(基準金額)に換算する(S10)。次に、その基準金額が入出力桁数範囲内、例えば整数12桁以下、少数2桁以下、であるか否かチェックし(S10-2)、範囲外であれば「桁溢れのため表示できません。」というメッセージを表示して(S10-3)からステップS9の金額入力へ制御は戻り、また、範囲内であればその基準金額を基準金額フィールド87に表示する(S10-4)。尚、ステップS9の金額入力の時点でも、入力金額が入出力可能桁数範囲内であるか否かを判断し、範囲外であれば、同様のメッセージを出して再入力を促す。

【0041】以上のようにして、明細部65に一つの伝票仕訳明細がエントリされるが、この過程で、振替伝票入力部27は、エントリされた行番号に対応する明細データ表示部67の伝票仕訳明細行91に、エントリされた勘定科目、補助事項、換算レート、借方金額又は貸方金額、及び基準金額を表示していく。その場合、エントリされた貸借区分が借方の場合には、エントリされた取引金額が借方金額として、また、エントリされた貸借区分が貸方の場合には、エントリされた取引金額が貸方金額として、仕分けられて明細データ表示部67に表示される。また、借方の基準金額には符号が付されないが、貸方の基準金額にはマイナス符号が付される。同時に、振替伝票入力部27は、エントリされた基準金額の合計値を計算して、明細データ表示部67の合計行92の基準金額セルに表示する。

【0042】一つの伝票仕訳明細をエントリし終わると、ユーザは確定ボタン105を押す(クリックする)

(S11)。すると、振替伝票入力部27は、そのエントリされた伝票仕訳明細をメモリに保持する(S12)。

【0043】1つの伝票仕訳明細をメモリに保持すると、次に、振替伝票入力部27は、明細部65をクリアし、行番号フィールド73に次の行番号をエントリして、次の伝票仕訳明細について再びステップS3からエントリを行えるようにする。ユーザは、1枚の振替伝票に記載すべき複数の伝票仕訳明細(少なくとも、1つの借方と1つの貸方)を上記の方法でエントリする。その際、各伝票仕訳明細の取引通貨は異なっていてよい。例えば、図8に示す例では、行番号1番の現金の借方金額は香港ドルであるが、行番号2番の売上高の貸方金額は日本円である。

【0044】1枚の振替伝票に記載すべき全ての伝票仕訳明細のエントリが終わると、ユーザは保存ボタン107をクリックする(S13)。すると、振替伝票入力部27は、エントリされた借方の基準金額をプラス値として合計し、エントリされた貸方の基準金額をマイナス値として合計し、プラスとマイナスの合計値を加算してゼロになるか否かをチェックする(S14)。このバランスチェックの結果、両金額の加算値がゼロであれば振替伝票入力部27は、伝票仕訳明細を仕訳テーブル17に1レコード(つまり、図5に示した1つの行18)として保存してから(S14-2)、新たな振替伝票入力画面61を表示して、次の振替伝票の入力が行えるようにする(S16)。

【0045】上記バランスチェックの結果、借方と貸方の合計金額がゼロにならない場合には、振替伝票入力部27は、「金額のバランスが取れてません」というようなエラーメッセージを示したエラーメッセージボックス(図示せず)を振替伝票入力画面61上にポップアップさせて、ユーザにアンバランスを通知する(S15)。バランスがとれてない原因は、ユーザの入力ミスか、又は為替差損益が生じている場合である。ユーザは、そのエラーメッセージボックスを消して振替入力画面61を再びアクティブにし、入力ミスの場合は、ステップS3へ戻って、ミスしたエントリ済みの行番号を指定してミスした内容を修正し、また、為替差損益が生じている場合には、ステップS3へ戻って、新たな伝票仕訳明細として為替差損益をエントリする。為替差損益をエントリする場合、振替伝票入力画面の明細データ表示部67の合計行92を見れば、基準金額の合計金額が示されており、この値が為替差損益の金額に他ならないから、ユーザはその金額をそのまま為替差損益の金額としてエントリすればよい。よって、為替差損益をユーザが計算する必要はない。このようにして、借方と貸方のバランスを取った後に、再び保存ボタン107を押せば、伝票入力

【0046】なお、ユーザは、必要な伝票仕訳明細を全



でエントリした段階で、明細データ表示部67の合計行92に表示された基準金額の合計値を見れば、入力ミスや為替差損益が生じているか否か容易に知ることができる。すなわち、異なる伝票仕訳明細の金額を複数の通貨を用いて入力しても、共通の基準通貨による基準金額が表示されるので、容易且つ正確にバランスをチェックすることができる。また、明細データ表示部67では、借方金額列99と貸方金額列101とが左右に並んでいるから、日本のような借方金額と貸方金額とを左右に並べて表記する簿記プラクティスに慣れたユーザにとって馴染みやすいと共に、異なる伝票仕訳明細は別の行に表示され、その基準金額は上下に並ぶと共に貸方にはマイナス符号が付いているため、欧米諸国の簿記プラクティスに慣れたユーザにとっても馴染みやすい。

【0047】以上、本発明の一実施形態を説明したが、この実施形態はあくまで本発明の説明のための例示であり、本発明をこの実施形態にのみ限定する趣旨ではない。従って、本発明は、上記実施形態以外の様々な形態でも実施することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態にかかる伝票処理システムのシステム構成を示すブロック図。

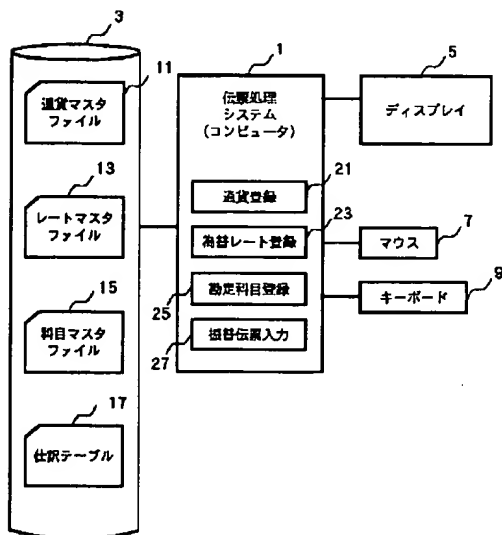
【図2】通貨マスタファイル11の内容を例示する説明図。

【図3】レートマスタファイル13の内容を例示する説明図。

【図4】科目マスタファイル15の内容を例示する説明図。

【図5】仕訳テーブル17の内容を例示する説明図。

【図1】



【図6】通貨登録画面を例示する画面図。

【図7】為替レート登録画面を例示する画面図。

【図8】振替伝票入力画面を例示する画面図。

【図9】振替伝票入力部27の処理のフローチャート。

#### 【符号の説明】

- 1 伝票処理システム
- 11 通貨マスタファイル
- 13 レートマスタファイル
- 15 科目マスタファイル
- 17 仕訳テーブル
- 41 為替レート登録画面
- 61 振替伝票入力画面
- 63 ヘッダ部
- 65 明細部
- 67 明細データ表示部
- 73 行番号フィールド
- 77 勘定科目フィールド
- 79 通貨フィールド
- 81 レートタイプフィールド
- 83 換算レートフィールド
- 85 金額フィールド
- 87 基準金額フィールド
- 91 取引事項行
- 92 合計行
- 93 勘定科目列
- 97 換算レート列
- 99 借方金額列
- 101 貸方金額列
- 103 基準金額列

【図2】

通貨マスタ 11			
コード	名称	通貨記号	基準通貨
001	香港ドル	HKD	0
002	日本円	JPY	0
003	人民元	RMB	1

【図3】

レートマスタ 13				
レートタイプ	換算元通貨	換算先通貨	換算日	換算レート
TTB	HKD	RMB	98/01/01	1.06
TTB	HKD	RMB	98/01/02	1.06
TTM	HKD	RMB	98/01/03	1.07
TTS	HKD	RMB	98/01/04	1.08
TTS	HKD	RMB	98/01/06	1.08

【図4】

科目マスタ  
15

科目コード	補助コード	勘定科目名	科目区分	レートタイプ
1101	0000000000	現金	資産	TTM
1141	0000000000	売掛金	資産	TTM
1401	0000000000	原材料	資産	TTM
1401	001	原料及び主要材料	資産	TTM
1401	002	補助材料	資産	TTM
5101	0000000000	売上高	売上	TTB
5101	001	国内製品売上高	売上	TTB
5101	011	輸出品売上高	売上	TTB

【図5】

17 仕訳テーブル

伝票 NO	貸借 区分	通貨	借方入力 金額	貸方レート	借方基準 金額	貸方入力 金額	貸方レート	貸方基準 金額	
001	1	HK \$	500,000	1.0700	535,000	0	0	0	
001	2	JP ¥	0	0	0	33,000	16.2000	534,600	
001	2	RMB	0	0	0	400	1.0000	400	

18

【図6】

31 通貨登録画面

通貨登録

	コード	名称	通貨記号
1	HKD	香港ドル	HK \$
2	JPY	日本円	JP ¥
3	RMB	人民元	RMB

詳細データ

コード

名称

通貨記号

コード

名称

通貨記号

【図7】

←41 為替レート登録画面

為替レート登録

換算通貨: 香港ドル ▼ 43 → 人民元 ▼ 45 登録月: 1998/01 47

	TTS	TTB	TTM
1	1.070000	1.080000	1.075000
2	1.070000	1.080000	1.075000
3	1.070000	1.080000	1.075000
4	1.070000	1.080000	1.075000
5	1.070000	1.080000	1.075000
6	1.070000	1.080000	1.075000
7	1.070000	1.080000	1.075000
8	1.072000	1.081000	1.085000
9	1.072000	1.081000	1.085000
10	1.072000	1.081000	1.085000
11	1.072000	1.081000	1.085000
12	1.072000	1.081000	1.085000
13	1.072000	1.081000	1.085000
14	1.072000	1.081000	1.085000
15	1.072000	1.081000	1.085000
16	1.072000	1.081000	1.085000

53

社内レート 1.100000

保存 (S)    クリア (C)    削除 (D)    印刷 (P)    終了 (E)

【図8】

61 為替伝票入力画面

為替レート登録

ヘッダー

計上日: 99/07/06 69  
伝票: 98070001 71  
伝票摘要: 63  
伝票番号: 65  
ファイル名: 67  
☐ 伝票発行 ☐ ファイルとして保存 2 ☐ 納品票 ☐ 決済

明細

計上日: 99/07/06 73 貨物区分: 陸方 75 通貨: 香港ドル 79  
勘定科目: 1101 現金 81  
補助: 011 営業一部 83  
取引先: 5002 99  
明細項目: 93 95 97 99 101  
92

	勘定科目	補助	決算レート	借方金額	貸方金額	高年金額
1	1011 売上高	011 陸地製品	1.070000	500,000.00		535,600.00
2		高年調整	15.200000		33,000.00	-534,600.00
3			1.000000		400.00	-400.00
4						
合計						0.00

107 105

保存 (S)    クリア (C)    削除 (D)    終了 (E)

【図9】

